

2026年度第1回 豊岡市総合教育会議（定例会）議事録

・開会及び閉会の日時及び場所

開会日：2026年5月28日（木）

場 所：豊岡市役所 本庁舎3階 庁議室

所在地 豊岡市中央町2－4

開会時間 午前 10時00分

閉会時間 午前 11時50分

・出席者の氏名

出席者	豊岡市長	門間 雄司
	豊岡市副市長	土生田 哉
	豊岡市教育委員会	
	教育長	能登 琢也
	委員	升田 敏行
	委員	鈴木 千佳
	委員	島崎 栄子
	委員	小谷 士郎

・事務局等関係者の氏名

事務局	教育次長	永井 義久
	教育次長補佐兼幼児育成課長	向原 芳江
	教育総務課長	川崎 智朗
	学校教育課長	川島 秀博
	学校教育課参事	吉谷 孝憲
	学校教育課主幹兼指導係長	宿南 恵介
	学校教育課主幹兼指導主事	岩崎 隆行
	教育施設課長	谷口 祥規
	教育施設課参事	加藤 哲夫
	教育施設課主幹兼再編推進係長	今井 智之
	教育総務課長補佐	足立 美由紀
	教育総務課教育総務係長	中島 香
	市長公室長	谷口 雄彦
	市長公室経営企画課長兼未来共創室長	浪華 誠
	産業経済部長	坂本 成彦
	こども未来部長	若森 洋崇

・日程

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 部活動の地域展開の進捗と今後のスケジュールについて

(2) 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画【後期計画 時点修正】について

4 その他

5 閉会

開会 午前10時00分

【日程1 開会】

(教育次長)

定刻になりましたので、ただ今から2026年度第1回豊岡市総合教育会議を開会します。なお、会議で活発な意見が出るよう、市長に代わり教育次長の永井が進行させていただきます。

【日程2 あいさつ】

(教育次長)

開会にあたり、総合教育会議の主宰者である門間市長からごあいさつをお願いいたします。

(市長)

おはようございます。新しい年度が始まってもう2ヶ月近く経っていますが、今日は、第1回の総合教育会議ということでお集まりいただきました。新しい教育長は、5月から今日で何日目かを数えるぐらいです。それでフレッシュ感が出ていると思うのですが、そうは言いながら、トップスピードでバトンを受け取っていただいて、またこの1年、様々な懸念事項を進めて、改善に向けてのことはしていけないといけません。そういった場であります。教育委員の皆さん方にはそれぞれの立場で感じていることを、また貴重なご提言等をいただくような、そういった時間になることをお願いを申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(教育次長)

次に、教育委員会を代表しまして、能登教育長からごあいさつをお願いします。

(教育長)

おはようございます。初の総合教育会議ということで、今日たくさんの傍聴も来ていただいて、本当に興味を持っていただいていること、ありがたいなと思っております。昨日、都市教育長会議という兵庫県内の各市の教育長が集まる会がありました。その中でも話題に上がっていたのが、家庭内の暴力で子どもがChatGPTに相談をして児童相談所通告し、父親が逮捕される。挙げ句の果て父親がその職を失うというようなことがあって、非常に話題になっておりました。ある意味AIに頼って、いい面もあるのですが、子どもはそこまで本当に想像していたのかなと思うと、そのあとのフォローが必要なのかなと思います。

一方、今日の話題にもあがりますが、部活動の地域展開、これも非常に各市町で苦慮している状況がありまして、情報交換をたくさんしてきました。その話題には後で触れたいと思います。今、学校現場では修学旅行がほぼ半数以上終わったのかなと思います。小学校も自然学校が始まってきました。中学校は、もうすぐトライやる・ウィークが始まります。いろいろな体験活動が行われている。これが日本の学校教育の特徴でもあるわけですが、その中でいろんな体験を通して、子どもたちはいろんな生きる力を身につけていきます。豊岡市の教育が大事にしている非認知能力を伸ばすのもこの行事というのは、非常に大きな機会になります。

一方で、その体験の格差ということが話題にも上がります。日本の子どもの9人に1人が貧困状態にあるというふうにされています。中でも、ひとり親世帯の貧困率は4割になると言われています。その中で、食事と憩いの場を提供するこども食堂というのが全国に広がっているわけですが、体験の格差、これを何とかするために豊岡市では非認知能力を高めないといけないということで、演劇ワークショップが生まれました。それも、この総合教育会議での議論から生まれたと聞いております。この会議で生まれたものはたくさんあります。ずっと前には、こども支援センターの設立に向けて、この会議で議論、意見交換される中で、そこに繋がっていったと聞いています。私が課長時代にも1つ、まだ働き方改革という言葉が出だしのころですけど、「学校が大変なのです」ということで、校務支援システムを入れたらどうかということで、その次の年に予算化されました。但馬でたぶん一番だったと思います。そういった意味で、教育委員会、市長部局の関係がしっかりと現場の状況を認識しながら、共通理解をして課題解決に向かっていけば、本当にいい施策が生まれてくるのだろうなということを思っております。今日はそういった意味でも、いろんな意見交換、共通認識をして、子どもたち、それから市民の皆さんの教育環境、生活環境の向上に繋がるような会になればいいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○ 総合教育会議の開催について

《教育次長の説明》

総合教育会議の開催について、資料に基づき説明する。

(教育次長)

今回の会議は、能登教育長就任後、初の総合教育会議となりますので、改めて、総合教育会議の概要につきまして、説明させていただきます。

まず、設置の趣旨です。市長と教育委員会が意思疎通を図るということと、地域の教育課題やあるべき姿を共有することで、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために、この会議を設置するということでございます。

それから、会議の位置付けにつきましては、市長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議調整の場であるということでございます。調整につきましては、教育委員会の権限に属する業務を執行するためには、その前提となる予算でありますとか、条例等がございますので、市長権限の部分と調和を図るということがございます。その調整結果について互いに尊重して、それぞれの事務を執行・管理していくということになります。それから、協議がこの場でございますけれども、自由な意見交換ということで、政策を決定する場ではないという認識をお願いしたいと思います。

それから、市長と教育委員会の職務権限ということで、地方自治法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、法律上の権限の違いというものをご覧いただいています。特に、スポーツ、文化財保護ということにつきましては、豊岡市の場合は、法律で豊岡市が市長の職務権限という特例の条例を作ることによって、市長が直接的な権限、最終権限が市長までであるというようなことにしています。教育委員会から市長部局に権限が移ったものは、歴史博物館の設置及び管理、廃止に関することであるとか、スポーツに関すること、文化及び文化財に関することは、市長の権限ということです。それに対しまして、事務委任ということで、市長部局から教育委員会に権限が移ったものは、保育所、認定こども園に関すること、放課後児童クラブに関するものがございします。補助執行は、権限が教育委員会にあるのですけれども、事務の執行は市長部局というものになります。例えば、学校施設の開放といいますと、やはり団体との調整とか、市民に近いところが窓口をやったほうがいいだろうということがあり、振興局が事務を担っている部分もございします。それから、市長に権限がありながら教育委員会が補助的に事務執行しているということで、議案の作成、この総合教育会議がございします。概要説明は、以上です。

【日程 3 協議事項】

(1) 部活動の地域展開の進捗と今後のスケジュールについて

(教育次長)

続きまして、協議事項に入らせていただきます。協議事項の内容について補足説明をするために、担当部局の職員が出席していますことをご了承ください。

部活動の地域展開の進捗と今後のスケジュールについて、学校教育課が説明します。

《学校教育課の説明》

部活動の地域展開の進捗と今後のスケジュールについて、資料に基づき説明する。

(学校教育課主幹兼指導主事)

部活動の地域展開の進捗と今後のスケジュールについて説明します。

「初めに」、「進捗状況」、「今後の取組」、この流れで説明させていただきます。

「初めに」の中で、ガイドライン、国県の方針、本市の推進計画案の順でお話します。

2025 年 12 月に文部科学省から出されました部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインについてです。部活動改革の理念として、「継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実する」「地域全体で関係者が連携し、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障する」「全ての生徒が多種多様な活動に参加できる環境を整備する」「地域スポーツ全体の振興や地域活性化等に繋げる」の 4 点が掲げられています。子どもにとっては他校や地域、他世代の方々と交流する機会が広がり、これまで学校規模の制約から体験できなかったスポーツや、文化芸術活動にも参加できるようになります。また、こうした取組を通じて、地域で子どもを育てる意識の醸成にも繋がります。

続きまして、国の方針です。国は改革実行機関として、前期 2026 年から 2028 年、後期 2029 年から 2031 年を設定しており、休日の部活動について、改革実行期間内に原則すべての学校部活動において地域展開の実現を目指すとしています。中山間地域や離島等で地域展開が困難な場合

には、当面部活動指導員の配置等を推進するとしています。本市も部活動指導員の配置を進めております。県については、2026年夏ごろに推進計画の改定を予定しております。

続きまして、本市の推進計画案です。国の改革実行期間、2031年までにおいて休日部活動の全面的な地域展開を目指す。平日の部活動は、当面は学校で継続する。準備が整った部活動から順次地域展開へと考えております。しかしながら、課題や検討事項が山積しており、この推進計画においても専門部署の設置や、設置後にも何度も見直し、再検討が必要となってくると考えられます。

続きまして、本市の現状です。まず子どもの数ですが、小学校入学時の児童数はここ20年で43%に減少しております。また、2025年から6年後は、64%に減少の予測となっております。学校単位での部活動維持が限界となってきています。2025年度の学校部活動の状況を挙げております。学校規模による選択肢の格差、チーム編成の困難さのために、合同チーム編成、廃部となる状況が見られております。

学校部活動から地域クラブへ展開することで、運営の仕組みや参加のあり方も大きく変わってきます。実施主体は、中学校から地域民間団体へ、指導者も教職員中心から地域や民間の指導者が担う形になります。参加者は、当該校の生徒に限られていたものが、地域の子どもから大人まで、多世代、広域での参加が可能になります。費用負担は、PTA会費等による部費から、クラブが設定する月会費へと変わり、保険についてもクラブごとにスポーツ保険へ加入する方式となります。

次に、認定地域クラブ制度というものがあります。学校部活動の地域展開により実施される地域クラブ活動について、競技力向上を目的とするクラブチームや、各種スクール等との区別、活動の質の担保の観点から、国のガイドラインに基づき認定地域クラブ制度を整備していきます。認定要件として、活動の目的理念、平日1日2時間程度以内、休日1日3時間程度以内の活動時間、週2日以上以上の休養日の設定、低廉な参加費の設定、不適切行為の防止、安全確保の体制整備などを求めることとしています。認定を受けた地域クラブには、生徒・保護者への市による情報提供、財政支援、学校施設等の優先利用、使用料減免、学校備品等の活用支援、希望する教師等の兼職兼業の許可、交通費・宿泊費・大会参加費等の大会・コンクール参加支援などの公的支援を行う予定としております。

市内をエリアに分けて地域クラブ化していくことも考えとしてあります。例えば、軟式野球なら5つ。サッカーは現在、豊岡南中がクラブ化に向かっておりますが、最終的には南北合わせた1つのサッカークラブチーム。陸上は4つ、ソフトテニス男子は3つに、などの考えもあります。これは地域を分けることによって、豊岡南北だけに集中するということではなく、いろんな地域への交通事情等も考えて、クラブ展開ができることを考えております。地域クラブ化を進めるにあたっては、生徒の移動手段、地域クラブ数に見合う指導者の確保等が課題となってきます。住んでいる場所や裕福な家庭のみではなく、すべての生徒が参加できること。参加するクラブが途中で活動を中止となったりすることがなく、持続可能な地域展開であること。そして子どもを決して犠牲にしない、子どものニーズを大切にした地域展開を目指したいと考えております。

続きまして、進捗状況についてです。モデル事業の実施、部活動指導員の配置、部活動のあり方検討委員会、補助事業の順でお話します。

まず、本市の進捗状況です。今年度の取組として、豊岡南中サッカー部においてモデル事業を

実施する予定としています。まず、拠点校部活動です。生徒が在籍する学校に希望する部活動がない場合、他校に拠点校部活動として開設された部活動に参加することができるシステムで、すでに春にチラシを配布しております。入部希望は今、他中より見学者が1名あり、検討している状況です。休日の地域展開については、8月以降の休日を地域クラブとしての活動に展開していく予定しております。モデル事業について、他の部から大会補助金や運営体制について、部活動から地域クラブに変わること、補助金が大幅に減らないかや、指導者や安全の確保などの運営体制が十分につくれるのかを危惧している、地域クラブとなることに不安を感じているというような声もあります。

続きまして、部活動指導員の配置についてです。2026年4月1日現在、運動部で6校16名、文化部で5校9名を配置しています。部活動指導員を配置することで、学校と地域の連携を深め、指導員がそのまま地域クラブの指導者として関わることで、指導者同士の繋がりが広がり、地域展開へスムーズに展開していくこともねらいとしています。

続きまして、豊岡市部活動のあり方検討委員会です。2023年度に発足し、今年で4年目となります。昨年度は、大学教授から地域クラブ活動の運営主体、実施主体の整備等について講義をいただきました。

続きまして、補助事業についてです。令和8年度地方スポーツ振興費補助金（運動部）と令和8年度文化芸術振興費補助金（文化部）を申請しています。対象として、休日の地域クラブ活動の活動費等の支援、経済的困窮世帯の生徒への支援、中学校における部活動指導員の配置支援となります。

続きまして、今後の取組について、推進体制の整備、検討課題、推進計画の策定の順でお話します。今後の取組として、まず推進体制の整備についてです。ガイドラインにも教育、スポーツ、文化、福祉、まちづくり、財政と様々な部署が一体となり推進することが重要とあり、関係部署との連携体制の強化や、定期的なミーティングを通じての情報共有や連絡調整が大切となってきます。文化・スポーツ振興課、経営企画課交通政策室、地域づくり課、学校教育課で月1回程度情報共有や、協議の機会を持つ予定としています。

続きまして、専門部署の設置、統括コーディネーターの配置についてです。専門部署の設置が必須だと考えております。他市町の状況として3市を挙げております。3市とも推進室を設置しており、専属の職員が複数名配置されております。他の業務と兼ねながらの推進は難しく、本市においても専門部署の設置は急務であると考えております。

続きまして、検討課題についてです。体制、人材、場とインフラ、資金の4点に分けております。庁内体制整備・専門部署を設置し、それぞれの課題について協議・検討を進めていきたいと考えております。例えば、「②運営・実施主体の整備、⑤活動場所の確保」は、文化・スポーツ振興課や地域づくり課が、「⑥活動場所への移動手段の確保」は経営企画課が、「③学校との連携」は学校教育課が、のように、それぞれの専門分野を生かすことができる庁内体制整備、専門部署の設置が必要です。

今後についてですが、推進計画策定に向けても、まず第1には専門部署の設置と専属の職員の配置をお願いしたいと考えております。

説明は以上です。

(教育次長)

意見交換に入ります。説明を聞かれた感想やご質問がありましたらお願いしたいと思います。

(市長)

何となくわかっているようで、わかってなかったことがちょっとずつ整理できているなというふうにご理解いただけたと思います。さらに器の話とか、これからこうするということは、また皆さんにご意見いただければいいのですが、今年度サッカーで、モデルで休日だけでもやろうとしているというのはもう決めておまして、「今後の取組」の中で、今年度のモデルのサッカーをここに当てはめ込めますと、具体的にどんなことになるかということも、共有していただいた方が皆さんとよりイメージしやすくなるのではないかなというふうに思っています。ちょっとご発言いただきたいと思いますのですが、あとは今年度モデルでやろうとしているサッカーをベースにすると、大体のこと、ここはこういうふうにしようと思っています、というのは言えると思うのですが、そういった観点で、もう少し補足説明できますかね。

(学校教育課主幹兼指導主事)

まず、「②運営・実施主体の整備」。これについては、実施主体をその豊岡南中のクラブとして考えておりますが、これについてもやはり保険とか安全の確保ということが関係してきますので、さらに上の運営主体、これを今年度については教育委員会の方で考えていこうとしておりますが、ゆくゆくはやはり、教育委員会ではなく、別の主体を作っていくといけない。この辺をモデル事業の中で検討していきたいと思っております。学校との連携は、土日と平日で部活動とクラブが併存します。その中で、顧問が兼職兼業を考えている方針でやっているのですが、地域の方の参加等の中でのクラブ化を進めていきたいと考えておりますので、学校との連携、学校と地域クラブとの上手な橋渡し、教育委員会も含めての連携を考えております。

(市長)

今回モデルでやるのは、あくまでも南中イメージとしておけばいいということですね。

(学校教育課主幹兼指導主事)

はい、そうです。「④指導者の確保・育成」についても、先ほど言いましたが、兼職兼業で考えている指導者の方もいますが、それ以外にもやはりサッカーを専門にされている方も地域におられますので、今部活動指導にも入っていただいている方もいます。そこから地域クラブの指導者になるというあたりも検討課題になってくるかなと思います。

「⑤活動場所の確保」については、豊岡南中のグラウンドで土日については考えているのですが、今後、平日も含めて、夜とかの活動になってくると、ナイター照明の必要性、それから、今ナイター照明は小学校だけです。また、小学校を使うとしたら、サッカーゴールにしても、大きさが違ったりします。必要な備品等も大きく変わってくるということも検討としてあがってくるのかなと思っております。

「⑥活動場所への移動手段の確保」については、現在、豊岡南中の生徒が中心になっています。先ほど言ったように、他の学校からも1名入ってくることもあがってきていますが、その子につ

いての移動手段、保護者に送迎中心でというふうに今は考えているのですが、これがある程度まとまりとかで、この学校から移動してくるなどが見えてくるような状況があれば、やはりスクールバスなど、市としてのそういう交通機関が可能な部分があるかどうかというのも、またみていかないといけないかなと思います。

最後に、「⑦財源の確保」。今年度は先ほどの補助金を使わせてもらおうと思っているのですが、この補助金についても、国県がいつまで補助金として対応していくかというのがわからない状況があります。なので、サッカークラブの方とも話しているのですが、自走できる組織を作っていないといけない。そういう部分を一緒に検討していきたいと思っております。

(市長)

休日だけ、サッカーだけちょっとやってみようということだけでも、今みたいにまだまだ動きながら、考えないといけないという状況なものですから、少し具体的にイメージしていただけたかなというふうに思います。あとは皆さん方、個別でも結構ですし、いろいろご意見を賜ればと思います。

(教育次長)

他の委員の皆様から、何かご意見がありましたらお願いします。

(鈴木委員)

私、子どもが今中学3年生の子がいます、実際に部活動させていただいています。親としては、子どもにもよるのですけれども、部活動という環境がなければスポーツ、芸術活動に関わることのなかった子どもが、中学校で1つのことに取り組んでやっていくことの教育的に意義を感じています。

また、成長具合とか、こんなに頑張れるのだなど、親としても知らない面が見えるという点では、すごく部活動があつてよかったなと保護者としては思っています。ただ、この地域の事情でできなくなってしまうという地域が増えてきている中で、さあどうするかということでこのように考えていただいているのですけれども、保護者としては、やはり子どもたちにとって、スポーツだったり文化活動であつたり、自分がやりたいことに1歩踏み出せるような身近さとか気軽さがすごく大事だと思っています。その点で言うと、豊岡市の課題は、移動方法であつたり、あとは家庭の状況で金銭的な部分であつたり、地域によって、家庭によってはできない子どもが増えてくるということだと思います。私は、やる気のない小学生でしたが、部活動でスポーツを始め、今の生涯スポーツに繋がっているのかなと思っているので、中学校に入ったら何かしようという環境がなければ、やらない子どもが今後増えていくのではないかなというところで不安に思っています。また、教育委員としては、対象が大人ではなくて、まだまだ体のでき上がっていない子どもであるということを考えると、お休みの日がなくなってしまうりだとか、実際には学校に行けば、例えば5時とか6時までとか、時間を区切って部活動が終わっていくのですけれども平日は。そうではなくて、地域部活地域クラブに移行することによって、夜遅い時間にやってしまう。そのことでの睡眠時間の弊害だとか、そういう子どもの成長にも影響というのも心配をしています。なので、いろんな方の専門家の方の意見も踏まえて、子どもにとって負担のない

部活動の地域展開がどういうものなのかなというのを考えていただけたらなと思っています。

(市長)

今みたいなこともね、成功している自治体があるので、何か教育委員会でうちがそうしようとしているということではないけれども、例えば、こんな方向性で課題解決しようとしているみたいなことが、何か情報提供等できることがあったらいいなと思ったのですが、移動とか金銭的な話、あと部活動をもうしないことの方に向かないようにこういうことをしていると、何かあればと思うのですが、何かないですかね。

(教育長)

先ほど言いました昨日の都市教育長会議の中で少し出た話題ですが、先行して今年度からが学校での部活動を廃止して、部活動を「社会移行」というふうにこの市は言われていますが、予算規模も約2千万円組まれています。かなり予算を組まれて、今年度からスタートされています。現状はどうですかとお伺いしたら、以前部活動の加入率は8割ぐらいありました。豊岡市の場合は9割あります。もっと高いです。この市で、昨年度まで部活動加入率は8割ぐらいあったのが、現在地域クラブが100以上立ち上がっているのですが、加入率が40%。あとの6割の生徒は一体どうしてるのだろうとちょっと不安になりました。

(市長)

もう少し組織としての行政目線だけではなく、鈴木さんがおっしゃったような親目線で、例えば金銭の話も、これまで無償っぽいイメージがあるのですが。部費とか払っていることもありましてね。だから、先行地域の人らが、あるクラブだったらこれまで部費がいくらだったのが、安くはなってなさそうなのですけども。このぐらいになっているとか。あとは移動手段ですかね。都市部であれば、バスがメインだということかもしれませんが、何かその辺りは情報ないですかね。どのぐらいの金銭負担があるとか、移動手段とか。

(教育次長)

移動手段ではございませんけれども、費用負担の部分について整理したものがございます。現在の部活動については保護者目線ということでは、部費、それからクラブ活動費ということでご負担いただいているものが、今度地域クラブに移行しますと、月会費等になるというようなイメージが持たれています。その他、移動手段のイメージというものは何かございましたら説明をお願いします。

(学校教育課主幹兼指導主事)

移動手段ですが、現状でもやはり先行地の情報は入っていないのですが。いろいろ工夫はされていますが。

(市長)

都市部だというイメージだとしてもバスが多いとか、保護者の送迎だとか、一番遠隔でどこ

まで行ってそうだとか。今後、新しく考えるのもいいのですが、先行しているところを当てはめ込めたら豊岡でそれが使えるとか、補完するにはどうしたらいいかということも、より議論がしやすく加速しないかなというふうに思って。そんなような整理をさせていただきました。ご意見いただければと思います。

（鈴木委員）

地域クラブに移行することによって、おそらく今、学校では学校の中での部活動というのは、たぶん指導者報酬はないと思うのですが、実際に月に何円かの月謝は払わないといけない状況が出てきていて、それを例えば、補助していただくとか上限はこれまでだということで作っていただくというのが必要だと思いますし、移動距離の問題にしても、特に豊岡なので、移動がすごく時間かかる子どももあると思うのですが。その部分をいかにどうするのか。平日は、今補放課後、学校で自主練をして土日だけ集まるという方法もできるかもしれないですし、公共交通機関を移動する時間だけ増やして、それに乗っていけるような体制にさせていただくのもありかなと思うのですが。実際そのすべてが保護者負担になるというのだけは、ちょっとやっぱり難しいのではないかなと思っています。

（市長）

移動手段に関しては、アイデアベースだけなのですが、ファミリーサポートセンター事業というのがすでに立ち上がっておりまして、送迎を地域の方にちょっとした実費費用弁償でやっていただくという仕組みでして、まだまだ登録者数と利用者数のマッチングが増えていない現状もおそらくあると思うのですが、そういったことも1つ検討の材料ではないかなと常々思っております。もしここで何かあれば、私が言うのも変なのですがね。そういうふうに思っているということで、少し意見だけ言わせてもらっています。

（升田委員）

感想だったり、意見だったりということで、この3年間教育委員をさせていただいて、この話題や進捗状況をお聞きしています。大きな意味で、今までの中学校でやっている部活というものを、大人も子どもも一度崩さないといけないと思います。部活が生まれ変わる時に、子どもたちがどんな活動ができるかということが大切な要素になると思います。子ども達がこんな活動があればいいとか、してみたいなという子ども達の意見をまとめておく必要があると感じています。学校の教員をしていましたから、従来の部活の在り方が抜けないものですから、部活といえばあんなものだ。だから、その部活がそのまま地域に移行すると考えてしまう。そうすると、こんなことが大変、あんなことが大変と心配ばかり出てきます。部活に求めていくものを、整理し、一新しなければならないと考えます。今ひとつは、今回の説明では触れてありませんでしたが、「部活の地域移行、地域移行」と大人達は言っているが、それを子ども自身はどう思い、どう感じているのだろう。具体的な部活の中身も、「お茶やお花」なんかの伝統文化もあっても良いし、子ども達があったらいいなと思うような部活を意見集約しておく必要があると思います。既にされていると思いますが、これも重要な材料のひとつであるという感想を持ちました。

(学校教育課長)

少し頭に残っていることを今お答えすると、子どもたちの感覚としては、やはり友達とともに楽しみたい、文化活動スポーツ活動を楽しみたいという感覚の子が7、8割いました。そういう感覚があると思います。ただ、心配事として送迎ですね。親に今迷惑をかけてはいけないのではないか、負担になるのではないかという思いは子どもながらに思っている、という結果は出ています。

(教育長)

今ありましたように、もう1回子どもの声を聞くことも必要かなと私も思っております。升田委員からもありましたが、先ほどの先行している市でも意外な人気があったのが、ダンスとか弓道。弓道のクラブは1つできているのですが、そこは順番待ちで今定員オーバーで入れない状態らしいです。だから、今まで部活動になかったような競技も子どもたちがやってみたいと、応募しているという現状はあります。そういったところも、豊岡市ではいろんな民間で活動されている方にもお声掛けをして、中学生を受け入れていただけるような受け皿を広げていけたらなと思います。ただ、先ほどありましたように、ふたを開けたら4割しか参加していないという状況があります。昨年度、中学校の校長会で話し合いをして心配事を聞いたときに、校長先生が心配されているのが、今は学校に部活動があって、友達と一緒になんか楽しく活動したいから、たまたまテニスをしたとか、たまたま陸上部に入った、たまたまバレーに入ったという子が多いと思います。先ほどありましたように、友達と一緒に楽しく活動したいという主な目的が7割、8割で、そこでその種目をきわめて全国大会に出たいとかプロになりたいというのは、ごく一部だと思います。ですから、学校にそういうのがなくなったときに身近な地域にいろんな選択肢がある状態を、我々どうやって作っていけるかということと併せて、今やっていることをいきなりスパッと、「何年何月で終わります。あとは自由にしてください。」というふうに投げ出してしまうのではなくて、上手に移行ができたかなと私は思っています。ということで、先ほどの今後のスケジュールに徐々に増やしていくという方向性を豊岡市は検討している。子どもたちがいきなり行き場所を失うのではなくて、今やっている子も選べる、新たなものも選べる、そういった段階的に作っていくというのが、先ほどの計画を見て私はいいなと思ったところです。

(教育次長)

文化活動ということで、委員の皆様から何か身近な活動について良い事例がありましたら、お願いしたいと思います。

(島崎委員)

先ほどの様々な部活動に参加できるという意味でいきますと、私は、田結の「アンガールズ」という案内ガールに参加しています。この3月に、毎年、定点観測でカエルの卵が、田結の湿地に何個あるのかというのを、アンガールズとか、この辺りの団体の方と一緒に数えるのですが、近大豊岡高校自然科学部が、そこに来てくれたという事例がありました。そういった自然環境の活動など、日常の活動とは違うことをしてもいいよということであれば、様々な広がりができるのだろーと思いますし、そういうことで、アンガールズはボランティアで活動しているので、そ

こで高校生が来るからお金をくださいということは言っていないし。特殊な能力を使っているわけではないので、指導者の確保にもつながるかもしれません。異年齢の交流とか、先ほど話にあった非認知能力とかコミュニケーションということを高めるという意味でも、いろんな部活動があつていいというところの1つの考えに、参考にしていただけたらいいと思いますし、そこで豊岡市ならではの部活ができるとかいうのも、ちょっと面白い取組なのかなとは思っています。

やはり専門部署をしっかりと立ち上げて、課題解決も含めて、いろんな方向性とか、検討できるような状況に早くならないといけないというのは今日の話聞いてとても思っています。もう1つは、移動に関して、地域の交通で再編は、豊岡市の大きな課題でもあるので、予算のことも含めると再編も踏まえて、一緒に検討ができれば、負担が減らせるというような可能性もあるのかなとは思っています。壁がどうしてもあると暗いとなるのですが、そういう豊岡市らしさみたいないところも出していけるとすごくいい取組になるのかなとは思っています。

(副市長)

多数のご意見いただいてありがとうございます。ただ、一番初めに私たちがしないといけないのは、まず危機感の共有だと思うのです。実は、この理念は書いてあるのですが、逆にこの理念を立てる前に、今子どもたちの部活動が失われている現実少子化で、各学校で部活動できてない。去年の秋にされた第1回目のこの検討会、活動のあり方の検討会で、どこの学校にどんな部活がありますよ。市民の方々は多分それをご存じないので、これをしようとすると、今、自分たちで局地戦の話ばかりをやろうとしているのですが、多くの方々に参加していただこうと思いますと、市民の方々に、今この少子化の時代に子どもたちにとって本当に多様なスポーツであるとか、文化の機会が失われていますよね。この中に多くの市民の方々参加してください、だからこういう展開が必要なのです、という豊岡市なりのロジックをもっと正確に伝えないと。

学校統合の今の学校のあり方のときにも、各小学校区の生まれている子どもの数だとかがなかなか表に出てこなくて、複式学級は私たちの学校にしか存在しえないと皆さんが思ってた。でも、市内でいろんなところに複式学級があるじゃないかということにお気づきになられて、学校のあり方の方針が一挙に加速化できたと。今自分たちの見えているだけの景色しか知らないけれども、多分、各学校で例えば部活動がどんどん失われているという、その実態をもっとあからさまに市民の方と共有する方法をしっかりと整備しないと、地域移行でクラブだけクラブ移行します、だけの言葉を聞いても、なぜというところにみんな引っかかりがあると思うし、少ない方々の努力でだけできるものではない。もう総力戦だという、公共交通の話もそうなのですが、いつでも危機感の共有がまず真っ先に一生懸命しないと、まず組織を作るだとかそらばかりやってしまいがちなのですが、どうしても一番肝心の入口の部分でないと、今度は市民の方にとってもやらされ感が、突然市役所が言っていた、教育委員会が言ってただけになってしまいそうな気がするので、まずはそこをお願いしたいなと思います。

(教育次長)

おっしゃるように、いろんな地域の課題でありますとか、市のデータというものが、例えば、会議の資料の中に埋もれてしまっていて、わかりにくいというのも課題だと思いますので、そこ

はやはり今後工夫していく必要があるかなというふうに思っています。今の事案もそうなのですが、その他、逆に良い事例や他の参考になるような事例がございましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(小谷委員)

事例ではないのですが、少しだけこの説明を聞いての感想です。先ほど土生田副市長からもありましたけど、待ったなしの状況になってきているのではないかなというふうに認識しております。ただ、もしかしたら前回のときに意見交換で話をされたかもわからないですが、部活動というのは、教育の一環だというふうに以前聞いたことがあります。ということは、教育で何か位置付けられているのかなというところがあるので、この移行をすることによって、それを継続するのか、変革するのか、変革になってくると思うのですが。そうなった場合に変革するにしても、どこまで教育委員会といいますか、行政側が入っていくのかというあたりは大変難しい問題になってくるのかなというふうに思います。ですので、その辺りもすでに話はされているかもしれませんが、気をつけながら、ぜひ進めていただけたらなというふうに希望しています。本当に地域移行をすることによって、選択肢が増えるということは大切なことだと思いますので、お願いします。

もう1つ、クラブ活動の中でいろいろ先ほど意見がありましたが、体験事業ということで、実は私退職をしましてから、活動のフィールドは田んぼか畑なのです。畑で一番いいのは、失敗ばかりするのですね、物を作っていると。だから、そういう畑で物を作る、1年間を通して作るという体験も、もしかしたら面白いのではないかなというふうに聞いていて思いましたので、付け加えさせていただきます。

(教育長)

部活の位置付けについて、先ほどありました学校教育の一環としてというのが学習指導要領にもうたわれております。次期学習指導要領については、今年度たぶん答申が出ると思います。おそらく完全実施が2030年ごろになると思いますが、次期学習指導要領にも部活動に関する記載は残ると言われています。12月に出た国のガイドラインにも特にこの認定地域クラブですね、国が示した要件、部活動が担ってきたような教育的な価値を引き継いで地域全体とする社会教育の分野になるのですが、認定地域クラブについては公的な性質を有する活動だとはっきりうたっています。だから、誰もが参加しやすい環境整備を市としてもお願いします、ということがうたわれています。だから一般のスポーツクラブ、競技力向上のスクールとかとは少し線を引いて、誰もが参加しやすいようにということで、1,000円から3,000円という低廉な参加費の基準を国が出してきていますし、移動についても支援をお願いしますよ、活動場所も公共施設学校の施設をできるだけ今までと同じように使わせてあげてくださいということが入っておりますので、そこは線を引きながら、公的な活動としてやはり支えていく必要があるのかなと思います。

(市長)

今の時点で答えが出にくいことかもしれませんが、先ほど豊岡市ならではの部活動というのも面白いのではないかなということとか、升田さんからそれに類するような子どもたちの目線で

参加してみたい部活動ということの検討もあるではないかという話がありましたけど、今の仕組みの中ではそういったことは、可能ではあるのでしょうか。

（学校教育課主幹兼指導主事）

いろんな活動に参加できる地域クラブなので、1年間通してそのクラブだけというわけでもなくて、今週はこれ、来週はそれというふうな形も選べますし、季節限定でという形で選べますので、当面は平日の部活動に入っているながら、他の野球をしている子が、クラブでなかなか難しいのですが、サッカーに入るというような形でも別に構わないですし、田んぼの活動に入るというようなことでも構わない状況です。

（市長）

今みたいな目線もね、現状に対応することとともに、ちょっと未来に繋がるような検討というのも豊岡市としてやっていければいい、なんていうふうに思いました。

（升田委員）

本当に課題が山積しているように思います。そうすると、他の3市のところで専門部署の設置の紹介がありましたが、豊岡市教育委員会の中に必要ですね。部活というのをどうしていくのかは、教育改革という意味で歴史的な大きな課題であります。そして、地域移行に関して施設の関係、団体、指導者の関係、交通アクセスの関係、そして保護者や地域への理解、協力を求める広報の関係等、あげればきりないほどやらなければならないことがあります。この移行期間6年間、それを中心に据えてやっていただく部署が必要だと思います。担当一人だけで、回っていく仕事量ではありません。いろいろな課題を聞いていくうちにますますそう感じました。

土生田副市長が言われたように、地域の皆さん、保護者の皆さんへ共有していただけるよう、アナウンスしていかなければならない。このひとつとっても大きな仕事だろうと感じます。子ども達のためになるような部活の在り方が一番の基本だろうと思いますが、そこはしっかり押さえつつ進めていくとなれば、私はやはり専門部署ですね。教育長、何か考えていただいて、前に進めていただければありがたいと私は考えます。

（教育長）

私はすぐにでも推進室を作りたいのですが、人とお金がありません。先ほど3つの市の例が出ておりましたが、昨日この教育長さんとも少し話をしました。その市の推進室も永久的に続くのではなくて、何年間、期間限定の推進室というふうに言われていました。やはり今年を含めて6年間、ここを国が求めているところでもありますから、自走できるような体制ができるまでの間はやはり、かなり行政のてこ入れが必要なのかなと思います。そこには、また市長のご決断をお願いしたいと思います。

（教育次長）

今の庁内連携体制につきまして、何か説明がありましたらお願いしたいと思います。

(学校教育課長)

文化スポーツや交通の関係、それから地域づくりの関係課と学校教育課で、情報交換始めたばかりです。升田委員もおっしゃったように、部活動ではなくて、やはりこの部活動と言っている間は、たぶん前に進まないだろうなど。この数年、私も担当していて、他の市町の担当者とも話をしていて、感じていました。まちづくり、市としてスポーツ文化の環境をどう作っていくのか。そのための課題はと言ったら、今出てきたようなたくさんの課題がありますので、市の中の横の連携の推進室ができれば理想なのですが、ちょっと教育委員会だけで、部活動と言っている間では、らちがあかない段階には来ているのは感じていますので、何とか今年1年はできる限り横の連携をとって危機感の共有と、できることの役割分担などをしていって、少しでも前に進める。今の体制で進めることを進めていくしかないのかなと考えています。

(教育長)

そういった意味からも、部活動地域展開推進室よりも地域クラブ活動推進室というほうがいいですね。

(教育次長)

他にご意見ございませんでしょうか。

(教育長)

あとちょっと補足しておきますけども、学校現場の方も何もしてないわけではなくて、今中学校の校長先生方には、合同部活動の検討もしていただいております。野球が9人必要ということで、なかなかチームが組めない学校が増えてきています。今までは、足りないもの同士で組んで、遠くのチーム、但東と竹野が組んでいました。日高西と城崎が組んでいました。移動も大変だし、なかなか日常的に練習ができないという状況があったので、もうそうではなくて、近隣のエリアで、足りているところ、足りないところがくつつく形になるのですけども、エリアごとに何とか合同部活動が始められないかというところで、今中学校長会中心に協議を進めていただいております。次のチームぐらいからそういった形で活動ができれば、そのエリアの合同チームが、ゆくゆくはそのエリアの地域クラブになればいいなというところで動き出していただいておりますので、補足します。

(教育次長)

最後に、今後の取組の中で推進計画の策定というものがございます。ご覧の推進計画は、たたき台であり、令和8年3月策定したものではなく、事務局が、こういった検討が必要だろうという項目を挙げたものです。計画策定を進める中で、いろんな課題を整理し、それから今の庁内連携の推進をどうしていくかというようなことも含めた計画を策定する予定としておりますので、また中間なり策定ができましたときには、議論、報告をさせていただきたいというふうに思います。

この部活動の地域展開に係る進捗と今後のスケジュールについては、ここで終わらせていただきまして、次の協議事項に入らせていただきたいと思います。

(2) 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画【後期計画 時点修正】について

(教育次長)

豊岡市立小中学校適正規模適正配置計画の後期計画を3月に策定しておりますので、そのことにつきましてご説明をした後、ご意見をいただきたいと思います。

《教育施設課長の説明》

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画【後期計画 時点修正】について、資料に基づき説明する。

(教育施設課長)

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画【後期計画 時点修正】について説明します。

豊岡市小中学校適正規模適正配置計画の後期計画の時点修正につきまして、3月に公表いたしました。今回、この後期計画を説明するにあたりまして、まず当初計画策定の概要について、説明させていただきます。

計画策定の背景です。2021年の策定時は、児童生徒数の急激な減少と学校の小規模化がありました。2006年と2020年の比較ですが、児童数は15年で1,131名減少。複式学級は4校から9校になっております。集団活動への支援、多様な考えに触れる機会が減少してきました。

続きまして、計画の目的と計画期間です。目的としては、集団規模の確保と教育内容のさらなる充実です。また、期間は2022年度から2031年度までの10年間としております。ただし、10年後以降の姿も見据えた計画としております。

続きまして、将来人口の推移です。これは当初計画の時点ですけれども、児童生徒数は2021年度9,471人が、2040年度には5,480人とほぼ半減する見込みとなっております。

将来の学校規模の見込みですが、2021年度時点で全校児童生徒数の50人未満の極小規模校は6校、2035年度では11校と複式学級を抱える学校は増え、小規模化の進行が予測されております。小規模化に伴う教育上の課題は、大きくは人間関係の固定化など生活面の課題と、教員配置の課題など学習指導体制の制約の面の課題があります。

続きまして、豊岡市の特徴的な教育です。豊岡教育プラン、豊岡こうのとりプランに基づき、非認知能力の向上、コミュニケーション能力の育成を掲げております。

適正規模配置の基準ですが、国基準と兵庫県基準を示しています。国基準では小学校・中学校とも12から18学級を望ましい学校規模としております。複数学級の意義として、各学年に複数の学級を確保することで、クラス替えによる新たな人間関係の構築と自分自身の再発見を促進できるとしております。集団活動の成立では、運動会や部活動など集団教育活動、多様な意見による協働的な学びを担保するための最低限の人数確保が必要とされております。

適正配置の基本的な考え方ですが、豊岡市では、通学距離、通学時間、地域特性などを考慮し、通学負担の軽減と地域拠点の維持を基本的な考え方としております。

続きまして、学校再編の基本方針と手法です。学校再編については、学校統合と施設一体型小中一貫校を基本としながら、地域との対話を重視し、合意形成を図りながら、最適な統合形態を模索する柔軟な協議を行うこととしております。

施設一体型小中一貫校のメリットですが、9年間を見通した教育課題の抜本的解決をメリットとしております。具体的には、中1ギャップの解消、小学校への教科担任制の導入、異年齢交流、コミュニティスクールの構築が挙げられております。

続きまして、こちら1枚の写真ですが、義務教育学校ならではの姿としております。集団登校に遅れ、心細く歩く低学年の子がおりまして、その後ろをある中学生がつかず離れず歩き、最後まで見届けていました。こういった中学生の姿というのも、義務教育学校だからこその光景だと思います。

続きまして、前期計画の進捗状況ですが、前期計画は概ね計画通り進んでおります。

竹野地域の再編状況ですが、2022年度に竹野、中竹野、竹野南小学校の3小学校が統合し、2025年度に竹野小学校と竹野中学校が再編され、義務教育学校「竹野学園」が開校いたしました。

次に、日高地域の再編状況です。静修小学校は地域からの要望によりまして、計画より1年早く、2023年度に日高小学校と統合いたしました。八代小学校につきましては、地域からの強い要望を受けまして、日高小学校との統合を見送り、2024年度から小規模特認校制度を導入しました。2025年度末の地区の検証結果をもとに、2027年度以降の制度継続について判断することとしております。

出石地域の再編状況ですが、寺坂小学校は福住小学校と2024年度に統合いたしました。小坂小学校と小野小学校は、計画では統合の目安を2025年度としておりましたが、地域からの合意書により2026年度に小野小学校と小坂小学校が統合いたしました。

但東地域の再編状況ですが、高橋小学校と合橋小学校は計画通り2023年度に統合いたしました。が、施設一体型小中一貫校への再編は2027年度を目安としていました。しかし、現在遅れている状況です。

続きまして、後期計画の修正点です。近況を反映した後期計画をこの3月に見直しいたしました。

豊岡地域については、当初計画では、2030年度前後を目安に新田小学校と中筋小学校を再編、その際には神美小学校も含めた再編し、考慮することとしておりました。しかし、直近の出生数等を見ますと、中筋小学校の児童数はほぼ横ばいで推移しますが、神美小学校の児童数の減少が加速している状況であることから、神美小学校に複式学級が生じる見込みである2031年度を目安として、新田小学校と神美小学校を再編し、その際には中筋小学校も含めた再編を考慮することとしております。

続きまして、港・城崎地域です。当初計画では2031年から2035年度を目安に、港小学校と城崎小学校を再編し、小学校から中学校への進学は分散進学とならないよう、小学校の再編よりも前に、2028年度を目安に港中学校と城崎中学校を再編することとしておりました。しかし、2025年5月に城崎地域の方から、城崎・港地区の小中4校同時に小中一貫校に再編するとの提言がありまして、小学校と中学校同時に再編し、小中一貫校も視野に入れて検討するというような計画にしております。時期につきましては、港小学校、城崎小学校ともに、児童数の減少は加速している状況であることから、港小学校に複式学級が生じる見込みであります2029年から2031年度を目安としております。

また、本年3月には地区やPTAから同様の要望をいただいております。城崎小学校と港小学校の統合、城崎中学校と港中学校の統合を進め、4校での義務教育学校の検討を要望されてお

ます。

続きまして、日高地域です。八代小学校につきましては、2024年度から小規模特認校制度を導入していますが、この2025年度の3学期後に見直しを行うこととしておりまして、6月には地域からの検証結果を受ける見込みです。それを受けまして、制度継続の可否を判断することとしております。統合につきましては、検証の際の地区要望により今後検討していきたいと考えております。三方小学校と清滝小学校は、当初計画では2031年から2035年を目安に、三方小学校と清滝小学校再編することとしておりましたが、両校とも児童数の減少が加速している状況にありまして、2031年度には、三方小学校に複式学級が生じる見込みであることから、2030年度前後を目安に再編することとしております。

続きまして、但東地域です。但東中学校の敷地内に施設一体型小中一貫校を整備するにあたりまして、地域の合意形成及び必要な施設整備の期間を見込みまして、再編の時期を2029年度としております。資母地区から統合について合意する旨の意見書が提出され、今後、但東地域で小中一貫校に向けた協議が本格化されます。

説明は以上です。

(教育次長)

今、説明がありましたように、統合の枠組みは変えずに、統合の時期が早まった。そういったふうにご理解いただきたいと思います。それでは、個別の統合の議論でもよろしいですし、その他ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

(市長)

定義をまた、ここで共通認識しておきたいのです。学校の再編のもう少し手前の話ですけど、特徴的な教育で非認知能力の向上とコミュニケーション能力というのは、一言で言うとうどういう違いがあるかというのは、どうでしたか。

(教育長)

広い意味で、非認知能力という中に、コミュニケーション能力もその1つとして含まれます。

(市長)

こういう書き方すると同等で、何か違いがあるのかなというふうにいつも思うのですが、けれども、認知されるものではない人間性だとか、コミュニケーション能力も含めた、この方が特徴的だということで、それを演劇の手法を通して育成しているというのが豊岡の特徴的な教育だということですね。

(教育長)

おっしゃる通りです。数値ではかれない能力のことをすべて非認知能力と言いますが、その中でも集団活動、学校の中で得意として伸ばしやすいというところで、やり抜く力・自制心・協働性、これを演劇ワークショップ、それから日頃の授業や行事などで高めていこうということをやっておりますが、コミュニケーション能力も非認知能力です。

(市長)

そこと再編との関係性ということで少し整理をしておきたいと思うのですが、例えば、小集団になればこの豊岡の特徴的な教育というのもやはりやりにくい部分が出てくるであろうと想像はできるのですけど。その辺の話とかもあるのですよね。

(教育次長)

今ございましたようなことで、小規模な学校での色々な工夫をされていると思いますけれども、そういった苦勞されている、工夫されたりしているような事例がありましたら、ご紹介いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。例えば、八代地区のことも参考になると思います。

(教育施設課長)

八代小学校では現在、小規模特認校制度が入っていますが、実際にはなかなか児童が集まっていない状況です。児童数が少ない中で、演劇の関係で専門職大学の方に授業していただいています。ただ、学年ではどうしても授業ができないで、合同で行った、全校生集まってというようなことで、何とか授業が成り立っているというような状況もありますので、こういった非認知能力とかコミュニケーションとかいう能力を育む上では、ある程度の人数というのがクラスで必要ではないかということで挙げさせていただいています。

(市長)

あとは小中の連携ですけれども、施設一体型というのは再編の中で計画はこうなりますよというご説明ですけれども、それ以前に施設一体型ではないけど、小中連携した一体教育というのはもう進めて、全校、全地域で進めているということでよかったのですよね。

(教育長)

はい。本市においては小中一貫教育ということで、もう11年目になります。学校管理運営規則で定めています。施設分離型の小中一貫教育ということで10年前に始めました。9年間で育てたい子ども像の教育目標を共通している。それから、それぞれの学校が定期的に会議をする組織がある。それと共通のカリキュラムを持っているということで、本市の場合は、ふるさと教育、コミュニケーション教育と英語教育です。

(升田委員)

私も学校におりましたので、今まで11年間やられてきた小中一貫というものは、小学校と中学校が一つになって子ども達をどう育てていこうかということを目的としてやってきた。ただ異なるのは、やはり学校施設が別々ですから、常に子ども達を小中の先生両方が見ていないということです。目の前の子ども達として捉えにくいということです。情報交換し、研究協議もしてきましたが、回数も限られるし、互いに子ども達の姿が捉えにくかった。常に子ども達の様子が瞬時に見られるのは、大きな教育財産であると思います。先生方が、小1年生～中学3年生まで自分の眼で今を確かめられるのは非常に大きなことです。義務教育学校というあり方が、最終の大きな

形でもいいと思います。これに、認定こども園も一緒になると、私個人としては一体型としていいのではと思ってしまいます。

今までの 11 年間の一番の成果だと感じるのは、学校訪問で参観させていただいて、中学校の先生方のきめ細やかな授業の展開ですね。小学校との交流の中で先生方が感じ取られ、子ども達に寄り添ったといいますか、寄り添ったという言葉が非常におおざっぱですが、丁寧に細やかに授業が展開されていると私は感じました。小中一貫の大きな成果だと思います。

子ども達が少なくなるので、こんな状況になるのは致し方ないという思いがします。しかし、小さな子ども達がバスに乗って登下校をするわけですが、バスに乗っている時間というのは 40 分が一つの境界かと思います。小さな子ども達だと、途中おしっこに行きたくなったり、お腹の調子が悪くなったりといろいろなことが想定されます。そんなことを考えると、地域の拡大もそのあたりが限界になるかと思うと、今後もっと進んでいくと、不安ではあります。

(教育長)

ふるさと教育については、昨年度開校した竹野学園が、竹野未来づくり科という、新たな取組をしています。まだまだ改善の余地があると思いますけども、本当に自分たちのふるさと、ここはいいところですよ、ふるさと愛そうというのではなくて、自分たちで愛するふるさとを作っていく、未来を作っていく、そういったことを探求的に学んでいく、それを地域の皆さんと一緒にという新たな教科です。やはり小中一貫教育の究極の姿が義務教育学校だと思います。ですから、但東は、但東のまた新しい展開がされるでしょうし、城崎・港地区にも構想が進んでいったら、また新たなことが生まれてくるのかなと、非常に私は楽しみです。

(市長)

実はわかっているようで、少し実感として保護者目線で言うとな。どういうふうに感じてもらっているのだろうか、どういうふうに感じてもらうと思って、共有しているのだろうかと思うところがありまして。小中一貫校による解決ということで、つまずき防止だとか高度な授業展開、社会性の育成や地域連携の構築ということで、こういうことを目指すということではっきりしていただいているのはいいのですが、日常でまだ始まったばかりのこともあるのでしょけれど、地域の保護者の方とかにどういう成果として示すようなことをイメージしておけばいいのかなというところが、少しわかった気になってしまうのですけど。具体的にどういうふうに保護者目線からすると感じてもらっているのだろうか、感じてもらうとするのだろうかというところ何かあったら共有しておきたいなと思うのです。

(教育次長)

今のところ、竹野は1月から、3学期に前期課程が1つの学校で授業するようになったということですけども、その今おっしゃられた成果の部分について、何か聞いているところありましたらお願いしたいのですけど。

(学校教育課長)

やはり保護者に見てもらうことが一番だなと学校は考えているとも思います。例えば、運動会、体育祭、今年の分はこれからなのですけども、昨年一緒にやっています。中学校3年生が小学校の低学年の子サポートし、練習のときから中学生が仕切って、積み上げていった、こういう経験もさせています。それからあと、やはり教科の先生たちの往来というか、中学校の先生が小学校の子たちの授業より専門的になりますし、そういうことも授業参観なんかでは見ていただいている。そういうところかなと思います。

(市長)

再編の話で、今ここの説明を受けているわけですけど、子どもの数が少なくなって、しかたなく感というところは、さっき升田さんも仕方がないということもおっしゃっていただきましたけども、現実問題、これはもう向かっていけないといけないのですけど。それだけにとどまるのではなくて、こうしたからよりそのメリットを生かすというところも、もちろん今も考えているから、この3つの項目でも出ているのですけど、そこを保護者にもわかりやすく、そして、そこにもう少し何か付加できるようなことを、竹野は、未来教育、地域の未来教育にやっていただき、そういった工夫も動きながら考えていただきたいなというふうに思うので。その辺もしっかりとお願いしたいというふうには思います。

(教育次長)

他の委員の皆様いかがでしょうか。

(鈴木委員)

私、子どもが豊小に行っているのですけど、ついに今年1年生が1クラスになりました。やはり少子化が来ているなという感じで、実感としては思っています。先ほど市長が指摘されたそのコミュニケーションとか、そういった非認知能力にどういうふうに影響するのかということを私なりに考えると、例えば、演劇ワークショップによく見に行かせていただくのですけれども、子どもたちがそれぞれのグループになって1つの劇を作るのですが、大きいところ、それなりに子どもたちがいる学校の子どもたちは結構勢いがあるのですね。何に勢いがあるかというと、アイデアがやはりいっぱい出てくるのです。でも、ちょっと私の勝手な認識かもしれないのですけど、小規模の小学校に行かしてもらうと、その劇を作ること、考えをみんなで出すことに対して、ファシリテータが1人つくという小学校も結構多いのですね。それって何かと思ったときに、やはり1つの物を作るというときのアイデアが少ないのかな、土台としては少ないのかなというのを私の個人的な感想ですけど、そういうふうに感じています。でも、小規模の良さもあるし、大きい学校の良さもどちらもあると思うので、その良さをどちらも持ち寄って統廃合してくださったら親としては安心かなと思います。あと、小中一貫校のメリットは何かと思って考えているのですけど。竹野学園に学校訪問行かせてもらったときに1つ思ったのが、校長先生が「小中一貫は、豊岡で初めての取組なのだけど、地域の人達に手伝ってもらってこういうことをしようと思う。」とか、すごく夢のあることをおっしゃっていて、すごく前向きでワクワクされているのだなと。先生方も前向きに思ってもらえるのだなというところで、すごくいいなと思ったのと、子どもを持つ親としては、少ない人数の中で、例えば、小学校のお兄さんお姉さんの姿を見

られるとか、中学校の兄さん姉さんが見られるって、子どもにとってのロールモデルが増えるというのはすごくいいなと思うし、地域によっては統合しても人数が増えない、というそのデメリットを今度、縦の年齢に、異年齢によってフォローするということでは、すごくいいメリットなのかなと思います。

(教育次長)

他の皆さんいかがでしょうか。

(島崎委員)

私は、港地区に住んでいまして、1市5町になるもっと前に、港地区が、城崎にくつつくのか豊岡にくつつくのかみたいな時代があったというのを聞いています。その時に、結局港地区は豊岡市にくつついたという過去の経緯がある中で、今回、PTAの方から港小と城崎小と一緒にということの提言があったというのは、時代は変わったのだなというのをものすごく感じました。八代のときに、保護者の方は比較的、統合というところの意見が多かったのかなと想像するのですけれども、地域の方々の反対の声というのが結構あるのかなと思っています。なかなか合意形成というところが難しいのかなと思うところもありまして、八代の事例を生かすということではないのですけれども、やはり子どもたちがどういう教育を受けてどう育っていけるのかということ、地域で考えていくというところをしっかりと提案していただき、その合意形成に関してもしっかりと図っていきながら、よりよい学校を地域みんなで支えられるような環境ができたかなというふうに思いました。

(教育次長)

その他いかがでしょうか。

(小谷委員)

私、静修小学校出身でして、私が在籍している頃から小規模でした。全校生徒 70 人ぐらいだったんですね。そういう世界でずっときていたもので、こういう適正規模とかいう話はよくわかるのですが、正直な話、統合しようが統合しまいが、どちらでもいいというふうに私は今でも少し思っているような感じがします。ただ、やはり人数が多いということは、それだけ多感な時期なので、いろんなことができるのかなと。聞いたことによると、いろんなことを判断するとき、自分の経験値以上の判断というのはできないと聞きました。そう思ったときに、いろんな経験を積んでいる方が子どもにとってはいいことなのだろうなと思いますので、それが小中一貫になると、今度は縦の経験ができる。小さいと横、本当の仲間、仲間内というのですかね。仲良しグループなので。嫌なこともいいことも、いろんなことを経験できた方がやはりいいのかなと最近思うようになっております。これは感想で申し訳ないのですが、こんなことを思いながら聞かせていただきました。

(教育次長)

特になければ、このあたりで終わらせていただいて、次に入らせていただきたいと思います。

後期計画直近では、但東地域で6月下旬をめどに統合に向けての地域全体の説明会をさせていただくというが1つありますし、八代地区からの結論が6月ということでございますので、定例教育委員会の中で議論、決定等をいただきたいと思いますと考えています。その他、後期の計画を進めるにあたりましては、スケジュールが決まりましたら、教育委員の皆様にはご報告をさせていただきたいと思っています。

【日程4 その他】

(教育次長)

それでは、その他に移らせていただきます。

昨年度の2回目の総合教育会議の中で、入学準備金という話をさせていただいております。それに関連しまして奨学基金の状況もお示ししたことがございましたが、今回は具体的に資料でお示しをさせていただいて、現状の奨学金の基金全体が約2億6000万というような状況がありますので、貸与される方に対して、基金が非常にたくさんあって、十分活用しきれてないという課題も持っておりますので、その共通認識をさせていただいた後、今後どう動くかということも考えていただきたいと思いますので、まず資料の説明をさせていただきます。

《教育総務課長の説明》

豊岡市奨学金について、資料に基づき説明する。

(教育総務課長)

本市における現在の奨学金制度の概要になります。貸与型の豊岡市奨学金、給付型の豊岡市交通遺児奨学金という2つの制度がございます。基金を財源に制度運用を行っているところです。

このうち、豊岡市奨学基金の財源であります、豊岡市奨学金について、金額が大きくなる一方で、貸与者数は減ってきているといった状況で、基金が有効活用できてないというふうな状況になっております。

それぞれの奨学基金の推移になります。豊岡市奨学基金、こちらの基金の有効活用について課題意識を持っているところです。現金として記載しておりますのが手元に持っているお金、奨学金貸付金というところが、貸与中のお金ということになります。2010年度では、現金が1億2313万8000円、貸付金額が1億846万2000円でしたけども、2025年度は、現金が2億2087万8000円、貸付金額は4568万2000円と現金が手元に多く、有効活用できてないといった状況になっております。

豊岡市奨学基金の始まりは、豊岡町の時代に上下水道建設工事に関連しまして、多大な貢献をされました中江種造氏の意味に基づくものであることから、過日5月13日に土生田副市長からご子息様へこうした状況の説明をしていただきました。あわせましてその際に、制度の趣旨を損なうことなく、子どもたちの未来に繋がる活用方策の検討を進めることについて、承諾を得ていただいていたといった状況です。この基金には、中江氏の意味に基づく水道事業特別会計からの繰り入れの他、篤志者からの寄付も含まれております。こうした状況下ではありますので、今後基金の有効活用策について検討を進めていく必要があると思っています。

(教育次長)

ここ 15 年で貸与者数が減ってきたというようなことでございますけれども、国では無償の給付型奨学金ができ、それから所得制限がありますが、授業料の免除・減免等が進んできたことも大きな要因だととらえています。今年度の申込状況は4件、少しですけれどもニーズはあるということでございます。

(副市長)

実は、今年が 104 回目の水道まつりが5月 11 日。もともと中江さんの当時の寄付をいただいて、水道ができて、100 回まで水道まつり、毎年お見えいただいて、その時の記念誌もこちらの方、ホームページの方にも掲げておりますので、またご覧いただければと思います。このときに中江種造さんが言われた中で、今回は水道のお金を出すのだけでも、これ将来にわたって奨学金というのを創設してはどうかと篤志者の中江さんが言われたのは、やはり地域をまた、将来担っていただきたいそういう人材をつくられるべきではないかというふうなご提言であったと思っています。今回も中江産業の方に私お邪魔しまして、今のこの基金の残高をお知らせしました。それから、奨学金の利用者がどんどん減ってきている。ただ、中江翁が最初に言っていたいたときは、誰も子どもたちに投資する、例えば、教育を与えるために何かを考えるということが、当時の日本の社会というのはまだ成熟してなかった。でも、そこから先に、例えば、就学支援であるとか、それから日本育英会の奨学金なんかもその後にどんどんスタートしてきて、近年になってくると、本当に高等教育の無償化であるとか、学校教育も無償化しましょう、それから県立大学も無償化ですというあらゆる制度設計が変わってきて、本当にそれから今回も市の方でもやっていますけども、奨学金の返還を企業の方が肩代わりするであるとか、いろんな形が変わってきてしまって、いわば、教育を取り巻く経済状況というのは極端に変わってきてしまっている。その中で、私たちは、中江翁が言われた地域を担う、将来を担う子どもたちのために何をするべきかという、その議論をもう一度しっかりさせていただきたい。ここに基金を毎年眠らせていても、これは子どもたちの将来にとって何も活用できていないので、ここをしっかりと考える機会を与えていただきたいという話を申し上げました。中江産業さんの方からも、「基本的に先見の明があって中江翁が当時こういうことを言われた。それに向かって豊岡市さんが新しい枠組みにステップスタートされるのは、それは何もとがめだてする必要もないし、積極的に活用していただきたい。子どもたちの未来を開くために何が行われるのか。そこにまた期待したいのだ。」ということはおっしゃっていただいていますので、ここら辺、私たちもこの議論を最初にスタートしようとするときに、最初の条例の趣旨であるとかということを、どうしても第一義に考えてしまいますけども、考えていかねばならないのはこれを設立したときの趣旨、それから中江さんが言われたときの当時の思いとして、やはり子どもたち、地域を担っていただく、将来を担っていただけるかもしれない子どもたちにとって、最適なあり方を考えて欲しいという、そういうメッセージはいただいておりますので、このところは、私たちはまた平場でしっかりと議論をしていけばいいのかなというふうに考えています。

(教育次長)

特にご意見がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほどもありましたように、今子どもに関する基金というのは、奨学基金と、給付型の交通遺児奨学金というものがございまして、教育委員会で基金の運用、貸し付けなり、給付をしているという現状です。過去に 2019 年でしたけれども、遺贈で、豊岡市出身の方から、自分にゆかりのある町に寄付をしたいということで、2000 万円寄付いただきましたけども、寄附目的に合う基金がありませんでしたので、財政調整基金に 2000 万円積ませていただいて、その後、豊岡市の非認知能力の事業にそれを取り崩しながら運用しているというのも 1 つございます。2 年ほど前には、ある市内の事業者から奨学金のために 500 万円の寄附していただいております。合併後いろいろと奨学金、基金の方に寄附をされた方、それから、その年度の事業にということで寄附をいただいているものもございますので、そういった課題も含めて、今後どうあるべきかということは、議論をしっかり進めていきたいというふうに思います。基金につきましては、以上になります。

その他でございますが、せっかくの機会ですので、委員の皆様からご意見、ご提案等がございましたら、発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(市長)

今度、兵庫県の教育長、教育次長が、豊岡市のコミュニケーション教育を視察したいという意向が実現するかもしれないのですが、そのあたりは共有していただいているのですか。

(教育次長)

はい。先日、兵庫県の木村教育長と教育次長がお越しになりまして、豊岡市のコミュニケーション教育、それから演劇ワークショップの方にすごく興味を持っておられて、ぜひ視察をさせていただきたいというような要望がありまして、日程調整をしていたのですが、6 月の予定が合わなくなりまして、来年の 1 月 20 日にお越しになることになりましたので、その場所が出石中学校です。また、ご案内させていただきますので、もしご都合がございましたら、お越しいただければというふうに思います。

【日程 5 閉会】

(教育次長)

これをもちまして、2026 年度第 1 回総合教育会議を閉会させていただきます。

閉会 午前11時50分
